

「さんべボランティアセミナー」

1 趣 旨

- (1) ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することで、社会の様々な場面で主体的に活動しようとする姿勢やボランティア精神を育む。
- (2) 先輩ボランティアやボランティアセミナーに参加した仲間、そして、三瓶青少年交流の家職員とのつながりをつくることで、今後のボランティア活動への意欲を高める。

2 事業の概要

- (1) 期 日
 - ① 令和5年6月10日(土)、6月11日(日)〈日帰り研修〉
 - ② 令和5年6月24日(土)～6月25日(日)〈宿泊研修〉
- (2) 会 場
 - ① 松江市城東公民館
 - ② 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 対 象
ボランティア活動に興味のある青年
- (4) 参加者(※募集各20名程度)
 - ① 大学生2人
 - ② 大学生3人
- (5) 講 師
くにびき自然学校 代表 佐藤 しのぶ 氏(①)
大田市社会福祉協議会 島田 奨馬 氏(①、②)
大田消防署三瓶出張所 職員(②)
国立三瓶青少年交流の家 職員(①、②)
法人ボランティア(①、②)

(6) 日程・研修内容

- ① 日帰り研修
【6/10(土)】
 - 9:30 オープニング(趣旨説明)
 - 10:30 「青少年教育施設の現状と運営(1.0h)」
 - 11:30 「青少年教育施設におけるボランティア活動①(1.0h)」
 - 12:30 昼食
 - 13:30 「ボランティア活動の意義(1.5h)」
 - 15:00 「ボランティア活動の技術(3.5h)」
 - 18:30 終了
【6/11(日)】
 - 9:00 「安全管理(救命救急)(3.0h)」
 - 12:00 昼食
 - 13:00 「青少年教育(1.5h)」
 - 14:30 「ボランティア活動の技術(0.5h)」

- 15:00 「青少年教育施設におけるボランティア活動② (1.0h)」
- 16:00 クロージング (振り返り)
- 16:30 終了

② 宿泊研修

【6/24 (土)】

- 10:30 オープニング (趣旨説明)
- 10:40 アイスブレイク
- 11:30 「青少年教育施設の現状と運営 (1.0h)」
- 12:30 昼食
- 13:30 「ボランティア活動の意義 (1.5h)」
- 15:00 「ボランティア活動の技術 (4.0h)」
- 17:30 夕食 (野外炊飯)
- 19:30 「青少年教育施設におけるボランティア活動① (1.0h)」
- 20:30 入浴
- 22:30 就寝

【6/25 (日)】

- 9:00 「安全管理 (救命救急) (3.0h)」
- 12:00 昼食
- 13:00 「青少年教育 (1.5h)」
- 15:00 「青少年教育施設におけるボランティア活動② (1.0h)」
- 16:00 クロージング (振り返り)
- 16:30 終了

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

ア. 「国立三瓶青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」において、本事業は「育成の入口」に当たる。ボランティア養成共通カリキュラムを実施する上で、今後は交流の家の法人ボランティアとなり、継続して参加しやすい環境を作るため、「参加者同士だけでなく、先輩ボランティアとのつながりも深めること」「交流の家でのボランティア活動を理解してもらうこと」を大切にしている。

イ. 参加者と先輩ボランティアのつながりを深めるため、先輩ボランティアには「運営のサポート」および「自身のボランティア活動についての発表」をしてもらうようにした。

(2) 運営のポイント

ア. 参加者同士や先輩ボランティアとの交流を深めるため、先輩ボランティアは運営補助主体ではなく、参加者と共に講義・演習に参加することで話しやすい環境を作った。

イ. 「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、先輩ボランティアから当交流の家の事業説明等を行うことに加え、過去の体験から得た学び・気づきを、参加者に直接語ることとした。

ウ. 大田市社会福祉協議会の方を講師に招き、「ボランティア活動の意義」について、より専門性の高い知見から講義いただいた。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- 「新しい知識をたくさん得ることができて、難しい問いに対しても考えを深めることができて良かった。」
- 「特に小学生などの小さい子供の対応をするときなど、自分が思っている以上の細かい部分にも注意していないといけないことを知った。常に周りを見て、危険がないかを考えていきたい。」
- 「企画者側としての観点と子供としての観点から安全管理について考えることが大切だと感じた。」

5 成果と課題

《成果》

- くにびき自然学校の佐藤氏および消防署職員の指導により、実体験に基づいた救急法を体験するとともに、実践的な考え方を学ぶことができた。
- 大田市社会福祉協議会と連携し、高い専門性を有した職員による講義を展開することができた。
- 参加者同士だけでなく、先輩ボランティアとのつながりも深めることを大切に企画・運営を行ったことで、事業終了時には連絡先を交換し合う姿も見ることができた。

《課題》

- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各大学へ広報に出向くことができず、掲示板掲載およびポスター広報のみとなった結果、参加者数が伸び悩む結果となった。また、他施設の大きなイベント日と日程が重なっていたことも参加者が少なかった原因だと考えられる。来年度は、各大学・高校から情報を集め、学生が出席しやすい日程について検討する必要がある。



(担当：企画指導専門職付主任 西川 和志)